

文庫あれこれ◆3月。別れと旅立ちの季節。今日の文庫は雨にけぶっています。海も大島も見えませんが。◆さのう、庭を見まわりに来た◆糸り Fさんは、見ごろを終えて今月の庭は端境期だね、ちょっとさびしい、と言われて帰りました。桜の蕾もまだ堅い。でも奥にクリスマスローズが。◆ほほえんだら、幸せになった さくら まだかな (さいとうひとり)。何気ないことばだけど、心をふーっと楽にする3月の詩。◆用事がある、I書店さんにはじめて行ってきました。以前寄贈くださる方がいて、岩波少年文庫を地元のI書店さんにどっさりお願いして入れていただいたのですが、店頭には本当に読み継がれた本だけで、あまり品物がないのですね。きっと本好きな方たちはお取り寄せをお願いするのですね。地方の書店が立ち行かないと聞く中で頑張っているとお見受けしました。文庫でも急がないものは、お願いするようにしましょう。◆ありがたいことに、10年誌の原稿、集まっています。欲を言えば、男の方、あと数人お願いしたいところです。◆この辺りでは小学校、中学校の卒業式はきのう18日だったようですね。今年は文庫の子どもたち(文庫開館当初から通ってきたYちゃんをはじめ)がいっぱい中学、小学校を卒業しました。みんな大きくなりました。あらたな道に心楽しいことが待っていますように、お祈りします。これからも文庫へ来てくださいね。◆巣立ってゆくと言ったら、長年、父子で、文庫に親しみ、スタッフとして助けてくれたAさん一家が故郷に帰られます。T君は高校へMちゃんは中学へと。どうぞ遠いF市でも楽しい学校生活を送ってくださいね。応援しています。お世話になりました。◆別れを悲しんでばかりいないで、文庫をもう少し頑張って続けて、また会える日を、新たな出会いを呼び込みましょう。◆新しく100冊入りました(大人、子ども併せて)。(西村)



2016

◆開館スケジュール◆

- ◆3月は通常 19日(土)20日(日)
- ◆4月は通常 16日(土)17日(日)
- ◆5月はロング(アートフェス参加) 14日(土)~20日(日)
- ◆若葉のころのおはなし会◆
14日夕方→大きい人向け
15日午前→小さい人向け
ゲスト:東京山の木文庫の皆さん
- ◆6月は通常 18日(土)19日(日)

文庫の時間

土曜日は午後2時~5時

日曜日は午前10時~午後3時

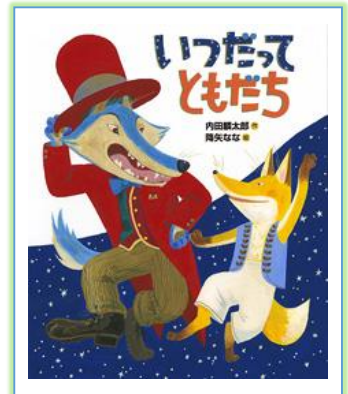
◆子どものための小さなおはなし会
毎月開館日の日曜 10:30~11:00

★おはなし沙羅の勉強会★

毎月開館日(土) 11:00~13:00



沙羅の樹文庫だより



おれたち、ともだちシリーズ最新刊 (偕成社刊)

YELL

いきものがかり 作詩

... 略 ...

僕らが分からぬ言葉がある

こころからこころへ

言葉を繋ぐ YELL

ともに過ごした日々を胸に抱いて

飛び立つよ 独りで

未来(つぎ)の 空へ

3月卒業・旅立ちのとき、みんな元気で飛び立とう!

2016年3月に読んだ本についての感想

2016. 3. 17 by 森林浴

『絶筆』 野坂 昭如著 新潮社刊 2016年1月第1版

正直言って、この本は世に出さない方がよかったのではないか、というのが第一印象である。例の、悪評高き少年Aの「絶歌」とこの「絶筆」は無い方が良かった。

野坂昭如と聞くと、私には、著書「火垂るの墓」の凄烈な読後感と、例の彼が歌う「男と女の間に暗くて深い河がある」の暗いメロディが聞こえてくるのだが、この本を読んで、「なんだ、野坂ってこんなつまらない男だったのか、」とでもいってあげたい感じが沸き上がってくるのを止められなかった。まあ私が独りよがり作り上げていた野坂の勝手なイメージがいけないのかもしれないが、人が病み死んでゆく景色は正岡子規を例外として(彼は結核や脊髄カリエスを背負って一生を生き死んだ)普通の人間は外に出さないのが良いように思う。

野坂・長嶋・大島渚。これが私の記憶する「脳梗塞に倒れた有名人3人男」だ。長嶋は依然右腕が動かない。大島は最後まで、俺が俺という表情を保ったまま、したい放題をしてついに亡くなった。野坂は宝塚出身の良い奥さんを持って85歳まで生きたが、この本には奥さんへの感謝の言葉は殆どない。文芸春秋3月号に陽子夫人の野坂の死に至るまでを記した文章があるが、こちらはとてもよく書けていると思う。



『ママがやった』 井上 荒野著 文藝春秋社刊 2016年1月第1版

荒野は作家の井上光晴の娘。この小説は母親の夫殺しという重苦しいストーリーを予想のつかない巧みな(軽快な?)筋道で8つの文集で構成している。母親は79歳の老女で小料理屋を経営、小説を書いていると称する夫は72歳の老人だが欠々に女との情事を繰り返すしょうもない男。二人の間に娘・息子など多数がいてみんな問題を抱えている。最初の文集(まあ普通は「草」と呼ぶところか)で母親による夫の殺人があって、その後はそこに至る家族のてんやわんやの展開があり、最後の「草」で一家は夫の古くからの女の一人を車に乗せて中央高速を山の中に向かう。はて何が起るのか。荒野は直木賞を貰っているが、彼女の文章なら芥川賞でもよかったかも。

『メディア・コントロール』 ノーム・チョムスキー著 鈴木主税訳 集英社新書 2015年11月第16版

前からチョムスキーを読まなければと思っていました。この本の初版は2003年。これはもう第16版。彼の書いたのは、112頁だけ。米国のMITの教授だったが、2005年に「世界最高の論客」に選ばれただけあってその舌鋒は鋭い。ベトナム戦争批判・マスメディア批判で有名。後半の46ページを占める対談では辺見庸もいささかたじろいでいるみたいだ。国家権力者が大衆の目から真実を隠蔽する手法は実に巧妙で、恐ろ

しいと言える。ユダヤ人の生まれだが、イスラエルに対する呵責ない批判も立派だ。

『シャルリとは誰か?—人種差別と没落する西欧—』 エマニュエル・トッド著 堀 茂樹訳 文藝春秋社刊 文春新書 2016年1月第1版

フランスでは2015年1月にイスラム教の教祖ムハンマドを風刺画でつくく揶揄したパリの新聞社「シャルリ・エブド」襲撃事件が起こり、フランス国内ではこれ強く非難するアンチ・イスラム教の大規模なデモが頻発した。トッドはこれがフランス国民全体の運動とみなされる流れを強く批判し、結果としてフランス国内で孤立、批判を浴びることになったらしい。彼の主張の根本は結局、「イスラム教はもうそろそろ全体として受け入れられ、かつてカトリック教会がそうだったように、ネイションの構成要素として正当化されるべきなのだ。」(290頁)ということ。トッドはこの事件をフランス国の国情が大きく変化しつつある重大な兆候であるとして、緻密な実態分析を行っている。パリではその後、2015年末に、死者130人を出したISメンバーによるテロ事件が起こり、改めて「国民の一致団結」が求められた。当面トッドの主張はますます受け入れられ難くなるだろう。この本の主題はあくまでフランスの国内問題であり、日本人にはあまり興味が湧かない問題だが、トッドの主張はきっと将来正しかったと証明されるのではないかと。

16年3月に入った子どもの本

絵本

『さかさことばでうんどうかい』(西村敏雄作 福音館書店) ID11919※逆さことばの面白さ。
 『いつだってともだち』(内田麟太郎作 降矢なな絵 偕成社 2016) ID11920※今月号の表紙。
 『おんちよろちよろ』(瀬田貞二再話 梶山俊夫画 福音館書店) ID11929
 『うしかたとやまんば』(瀬田貞二再話 関野準一郎画 福音館書店) ID11930
 『まのいりようし』(瀬田貞二再話 赤羽末吉画 福音館書店) ID11931※以上3冊読み継がれ昔話。
 『花さき山』(斎藤隆介作 滝平二郎絵 岩崎書店) ID11927※ロングセラー、心をやさしく包む話。
 『まちゃんと』(松谷みよ子文 司修絵 偕成社) ID11924
 『ちいちゃんのかげおくり』(あまみきこ作 上野紀子絵 あかね書房) ID11925
 『えんぴつつな』(長崎源之助作 長谷川知子絵 金の星社) ID11928※戦争を静かに語るお話。
 『あかいかばんのみみつ』(エマ・アレン文 フレヤ・ブラックウッド絵 木坂涼訳 国土社 2016) ID11921
 『おやすみ、ロジャー』(カール・ヨハン・エリオン著 三橋美穂監訳 飛鳥新社 2015) ID11922
 『アラジンと魔法のランプ』(アンドルー・ラング再話 中川千尋訳 ほるぷ出版) ID11923

紙芝居
 『雪の女王』(稲庭桂子脚本 いわさきちひろ絵 童心社) ID11932
 『子そだてゆうれい』(桜井信夫脚本 須々木博絵 童心社) ID11933
 『ふるやのもり』(水谷章三脚本 金沢佑光絵 童心社)

読み物

『浮いちゃってるよ、バーナビー』(ジョン・ポイン作 代田亜香子訳 作品社 2013) ID11926

広瀬おぼさんから 2016-3

絵本

『ママがおねつのはなし(こしょこしょきなちゃん)』(こがようこさく 童心社 2015) ID11946
 『10にんのきなちゃん(こしょこしょきなちゃん)』(こがようこさく 童心社 2015) ID11947
 『まーだだよ』(間部香代作 ひろかわさえこ絵 すずき出版 2016) ID11948
 『からかさにごえもん』(最上一平文 国松エリカ絵 文研出版 2016) ID11949
 『やだやだベティ』(スティーブ・アントニー作絵 平田明子訳 すずき出版 2016) ID11950
 『どんなきもち?』(ミース・ファン・ハウトさく ほんまちひろやく 西村書店 2015) ID11951
 『しあわせないぬになるにはーにんげんにはないしよだよ!』(ジョー・ウィリアムソン作絵 木坂涼訳 徳間書店 2015) ID11952
 『アンナとわたりどり』(マクシーン・トロティエ文 イザベル・アルスノー絵 浜崎絵梨訳 西村書店 2015) ID11943 『おかあさん どこいったの?』(レベッカ・コップ・ファン・エ おーなり由子やく ポプラ社 2015) ID11954
 『ネコがすきな船長のおはなし』(インガ・ムーア作絵 たがきようこ訳 徳間書店 2015) ID11955
 『ロバのジョジョとおひめさま』(マイケル・モーバーゴ文 ヘレン・スティーブンス絵 おひかゆうこ訳 徳間書店 2015) ID11956

読み物

『だんまりうさぎとおしゃべりうさぎ』(安房直子作

ひがしちから絵 偕成社 2015) ID11938
 『あまじやくにかんぱい!』(宮川ひろ作 小泉るみ子絵 童心社 2015) ID11939
 『うたたねネットとネムのくに』(野田道子作 太田朋絵 文研出版 2015) ID11941
 『天国にとどけ! ホームラン』(漆原智良文 羽尻利門絵 小学館 2016) ID11940
 『ニレの木広場のモモモ館』(高樓方子作 千葉史子絵 ポプラ社 2015) ID11937
 『べんり屋、寺岡の秋。』『べんり屋、寺岡の春。』(中山聖子作 文研出版 2015) ID11935~6
 『バイバイ、わたしの9才』(ヴァレリー・ゼナッティ作 伏見操訳 ささめやゆき絵 文研出版 2015) ID11942
 『戦火の三匹ーロンドン大脱出』(ミーカン・リクス作 尾高薫訳 徳間書店 21015) ID11943
 『ぼくのオレンジの木』(JM テ・ヴァスコンセロス作 永田翼、松本乃里子訳 ポプラ社 2015) ID11944
 『ぼろイスのボス』(ダイアナ・ウィン・ジョーンズ作 野口絵美訳 徳間書店 2015) ID11945

絵本を考える・・・

絵本はほんわかして楽しい絵とストーリーばかりではありません。身内を亡くしたり、イジメにあって心が壊れそうな子ども、戦火の中や貧困や差別の中で親以上に心を痛めている子どもを描く作品も少なくありません。子どもがそんな本を選んだとき、おかあさん、一緒になって本を読んで子どもと一緒に考えてください。(さ・ら)



16年3月に入ったおとなの本

フィクション

『たそがれどきに見つけたもの』(朝倉かすみ著 講談社 2016) ID16567
 『ミッドナイト・ジャーナル』(本城雅人著 講談社 2016) ID16568
 『バラカ』(桐野夏生著 集英社 2016) ID16569
 『一瞬の雲の切れ間に』(砂田麻美著 ポプラ社 2016) ID16570
 『ムーンナイト・ダイバー』(天童荒太著 文藝春秋 2016) ID16571
 『ハンニバル戦争』(佐藤賢一著 中央公論社 2016) ID16572
 『まく子』(西加奈子著 福音館書店 2016) ID16611
 『よこまち余話』(木内昇著 中央公論新社) ID16563
 『絶えて櫻の』(斎藤雅子著 新潮社) ID16606
 ※request
 『つつましい英雄』(マリオ・バルガス=リョサ 田原さと子訳 河出書房新社) ID16564
 『未成年』(イアン・マキューアン著 村松潔訳 新潮社) ID16573

エッセイほか
 『ジーンの家』(内田洋子著 文藝春秋) ID16576
 ※request
 『Oe60年代の青春』(司修著 白水社) ID16562
 『書く女』(永井愛著 而立書房 2016) ID16575
 『幼さという戦略』(阿部公房著 朝日新聞出版) ID16540
 『断片的なものの社会学』(岸政彦著 旭出版社 2015) ID16580
 『ひとりの記憶一海の向こうの戦争と、生き抜いた人たち』(橋口譲二著 文藝春秋 2016) ID16581
 『テロリストの息子』(ザック・エブラヒム著 佐久

間裕美子訳) ID 16574
 『字幕屋の二ホンゴ波世奮闘記』(太田直子著 岩波書店) ID16577

ノンフィクション

『ニッポン沈没』(斎藤美奈子著 筑摩書房) ID16552
 『圏外編集者』(都筑響一著 朝日出版社 2015) ID16578
 『日本精神史 上・下』(長谷川宏著 講談社 2015) ID16609 ~11620
 『いちばんシンプルな世界の歴史』(クリストファー・ラッセルズ著 日本能率協会マネジメントセンター 2015) ID16582※request
 『イエス伝』(若松英輔著 中央公論新社) ID16536
 『道程』(オリバー・サクセス著 太田直子訳 早川書房) ID16535
 『五色の虹』(三浦英之著 集英社) ID16537
 『みんなで行こうアホノミクスの向こう側』(浜矩子著 かもがわ出版 2016) ID16583※request
 『へろへろ一雑誌『ヨレヨレ』と「宅老所よりあい」の人々』(鹿子裕文著 ナナロク社 2015) ID16579
 『3.11 を心に刻んで 2016』(岩波書店編集部編 岩波ブックレット No. 947) ID16608

新書

『人間にとって寿命とはなにか』(本川達雄著 角川新書 2016) ID16584
 『今日が人生最後の日だと思って生きなさい』(小澤竹俊著 アスコム 2016) ID16585
 『金融緩和の罟』(藻谷浩介ほか著 集英社新書 2013) ID16586※request
 『「ほら、あれだよ、あれ」がなくなる本』(茂木健

一郎、羽生善治著 徳間書店) ID16587
 『詩の寺子屋』(和合亮一著 岩波ジュニア新書)
 『京都ざらい』(井上章一著 朝日新書) ID16561

文庫

『突突』(森岡浩之著 徳間文庫 2014) ID16589
 『陰の季節』(横山秀夫著 文春文庫) ID16566
 『旅立ノ朝(居眠り磐音江戸双紙 51)』(佐伯泰英著 双葉文庫) ID16565
 『この国のかたち1~6』(司馬遼太郎著 文春文庫 2016:41刷) ID16591~16596
 『本を読むということ』(永江朗著 河出文庫)
 『風俗時評』(花森安治著 中公文庫 2015) ID16590
 『職人衆皆ばなし』(斎藤隆介著 文春学芸ライブラリー) ID16541
 『戦争は女の顔をしていない』(スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ著 岩波現代文庫 2016) ID16597※2015年ノーベル賞受賞者
 『永遠の始まり1~4』(ケン・フォレット著 SB文庫 2016) ID16601~16604
 『飛たされざる者』(カズオ・イシグロ著 ハヤカワepi文庫) ID16605
 『遠い山なみの光』(カズオ・イシグロ著 ハヤカワepi文庫) ID16607
 『三十歳』(インゲボルク・パッハマン著 岩波文庫 2016) ID16598
 『死体泥棒』(パトリシア・メロ著 ハヤカワ文庫 2016) ID16599
 『リプレイ』(ケン・グリムウッド著 新潮文庫) ID16600